

3. 東滝川地区（コンパクトタウン）

3-1. 地区の概要

(1) 成り立ち

東滝川はもと「下幌倉」と呼ばれており、赤平市との境界近くを流れるポロクラ川からきた呼称です（アイヌ語の「ホロクラ（「ホロ」＝「大きい」、「ク」＝「弓」））。空知川沿いにはポン（小さい）クラという地名も残っており、縄文時代の土器などが多数産出されています。

東滝川の歴史は、明治 23 年の屯田兵がおかれた際には追及地、または、公有地とされました。明治 34 年に屯田兵第 2 大隊が解散となった際に公有地が解散し、同 36 年に「六戸」が入植して下幌倉開拓が始まりました。

その後、明治 39～40 年に小林和三郎が一带の 260 余町を買い、いわゆる小林農場をつくりました。同 42 年に長野県から一族の小林儀三郎を呼んで農業管理人とし、小作人の募集入植を進めて開墾に専念し、大正 11 年の空知土工組合灌漑溝工事の完成により滝川が美田化しつつあるころには、各地からの小作人の入地も多くなり、農場は急激に開発されました。しかし、昭和 22 年の農地改革により、不在地主ということで買収解放され、小林農場は終止符を打ちました。

また、大正 2 年に、農商務省は北海道の畑作農業近代化のために種羊場の開設を行い、同 7 年に滝川種羊場を開設しました。昭和 37 年からは北海道立滝川畜産試験場として「羊のいる北海道らしい牧歌的風景」として多くの人々に親しまれ、その後、平成 8 年に北海道立花・野菜技術センターが開設されました。

東滝川の市街地は、昭和 50～60 年代にかけて市営東栄団地、ニュータウンこすもすなどの住宅供給により居住が進みました。あわせて、東栄保育所（中央保育園分園）の開所、A-COOP 東たきかわ店の開業、東滝川転作研修センターの設置など、公共施設や生活利便施設の立地も進められ、現在の市街地が形作られています。

(2) 地区構成

本市の東部、国道 38 号沿道に位置し、国道の西側は JR 東滝川駅を中心とした住宅地とコスモス団地、東側は市営東栄団地が立地する住宅地であり、住宅地が中心となった地域です。

JR 東滝川駅の駅前通りを中心として、生活利便施設が立地し、地区内の主な公共施設は、東栄小学校、中央保育所分園、転作研修センターとなっています。

また、地区の周辺には、西側に滝川インターチェンジ、北側に花・野菜技術センターや畜産試験場跡地など、今後の本市の都市づくりにおいて重要な存在となる施設等があります。

◆地区を構成する町名：東滝川町、東滝川



図 3.1 東滝川駅前から 38 号線方面（昭和後期）



図 3.2 畜産試験場（平成前期）

3-2. 全体構想における地区の位置づけ

- JR東滝川駅周辺の市街地と国道38号沿道に日常生活利便ゾーンを配置し、その他の市街地は低密度居住ゾーン（低層）とします。
- 市街地周辺の農村環境を保全する土地利用とし、公園施設、空知川の河川緑地などの適切な維持管理により、良好な都市環境の維持に努めます。
- 滝川市の3つコンパクトタウンの1つとして、「ゆとり居住型のコンパクトタウン」の形成を図ります。
- 国道38号については、4車線化を進めることにより、公共交通の主要路線、都市活動や防災等の面から都市内外の移動の円滑化を図ります。
- 公共施設や下水道施設の適正な維持管理に努めます。

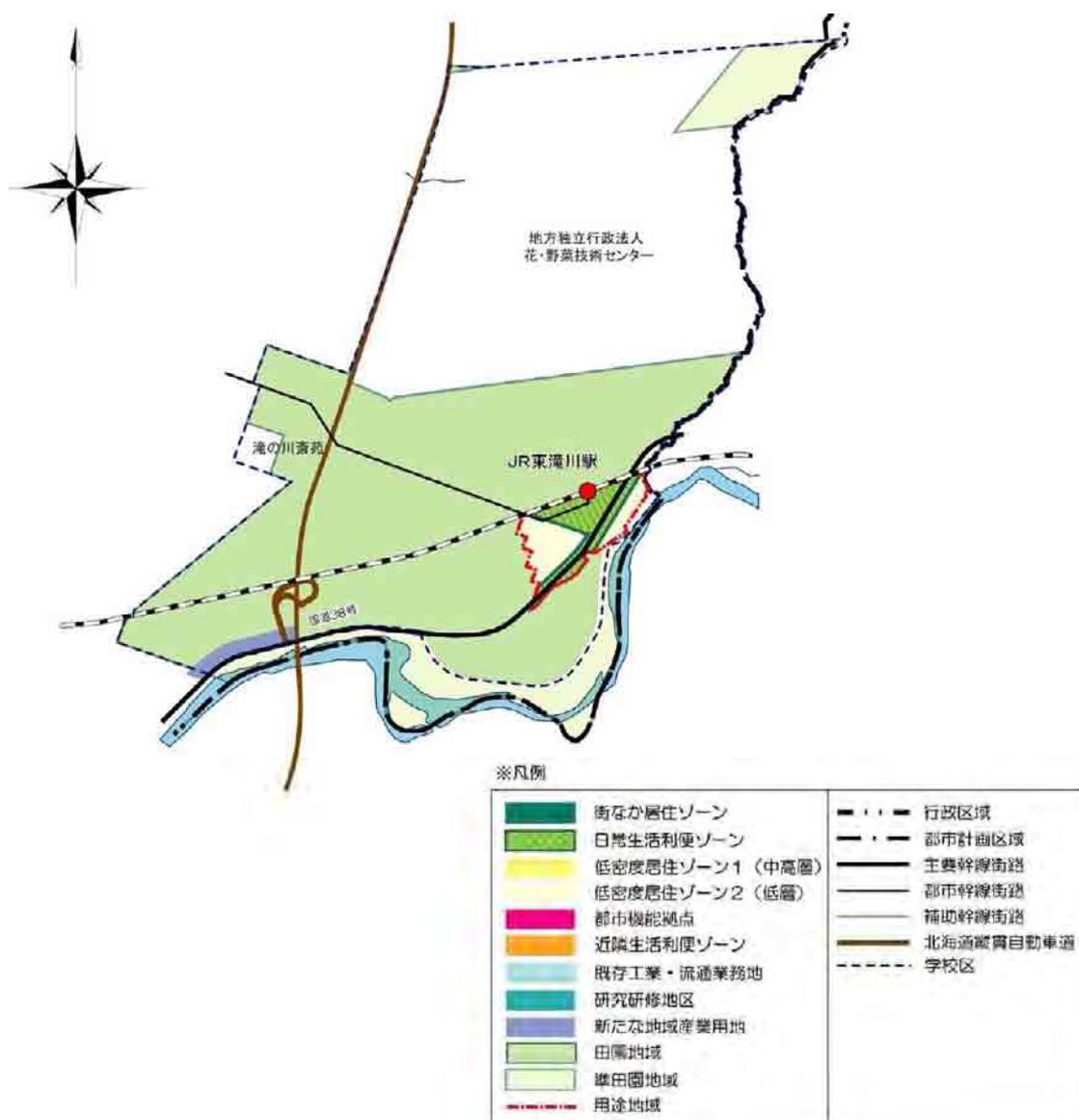


図 3.3 東滝川地区の土地利用方針図

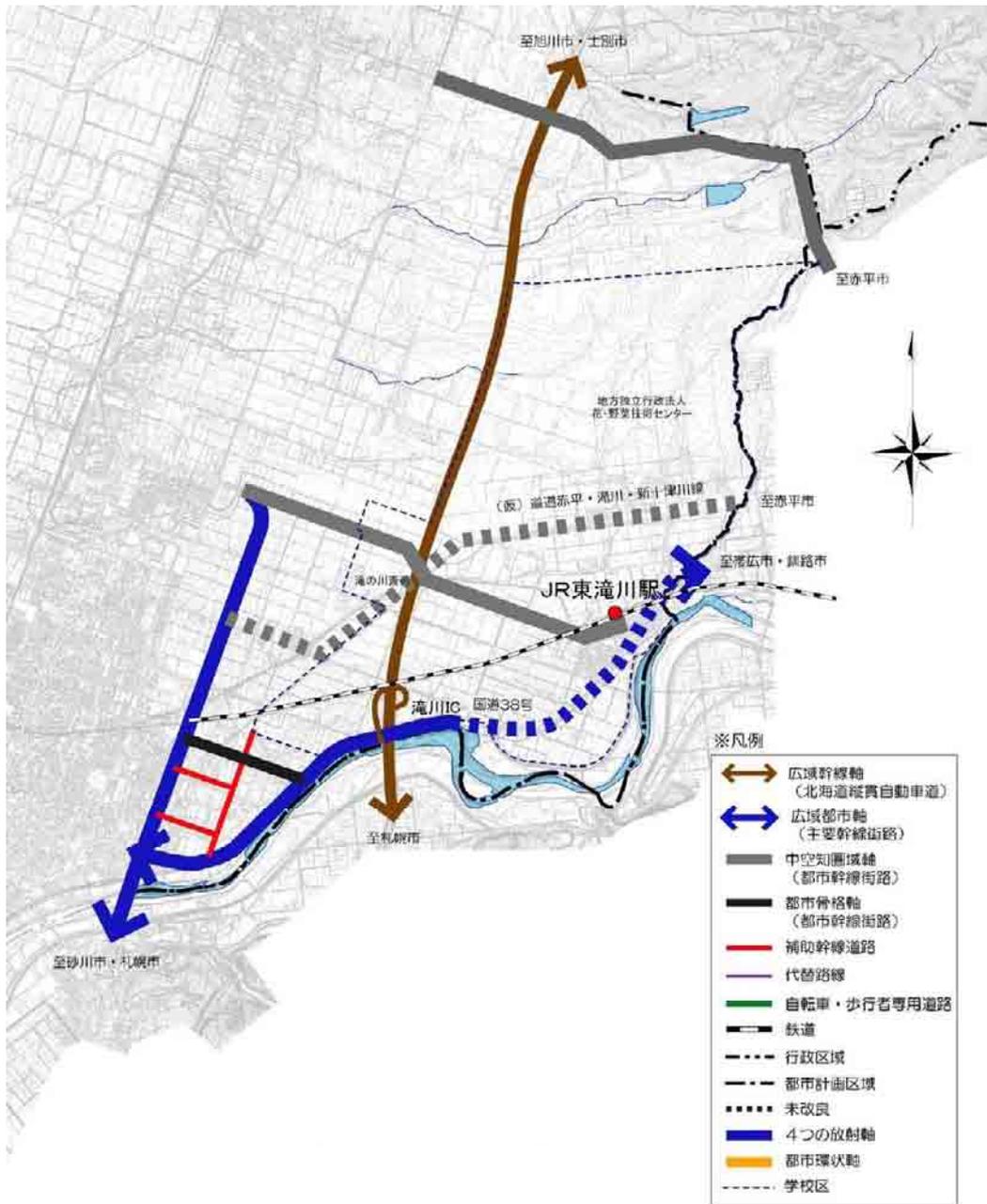


図 3.4 東滝川地区の道路体系方針図

3-3. 東滝川地区の地域別構想

3-3-1. 現状と課題

地区の人口は、減少が続き同世代の住民が一斉に居住を始めた地域となっていることから、今後、高齢化が急激に進むことが予測されます。また、駅前やコスモス団地内に空き地の発生が見られており、人口の減少が続くと、空き地の増加、さらには空き家の増加も考えられます。

施設の状況をみると、生活利便施設が十分整っている状況とはいえ、また、公園施設の老朽化も見られています。

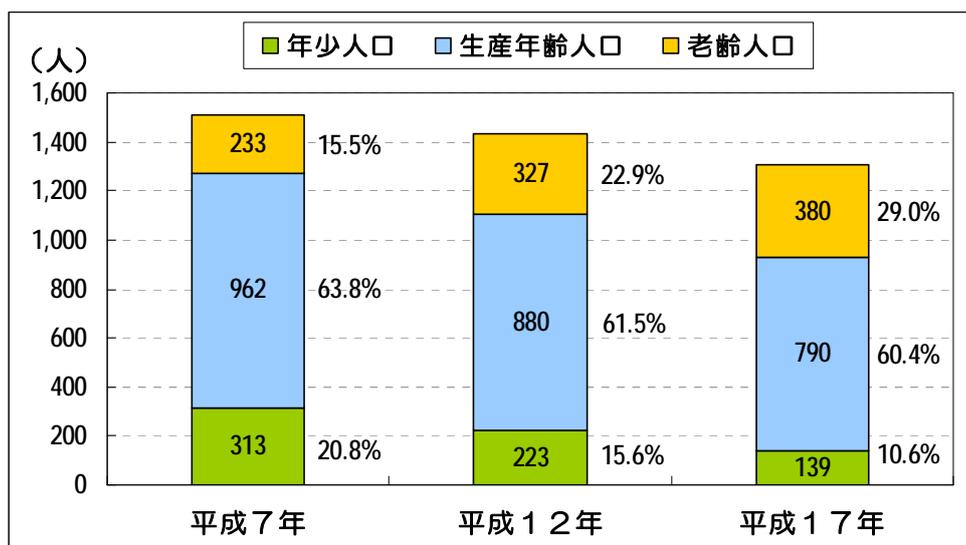


図 3.5 東滝川地区の人口の推移※／各年国勢調査

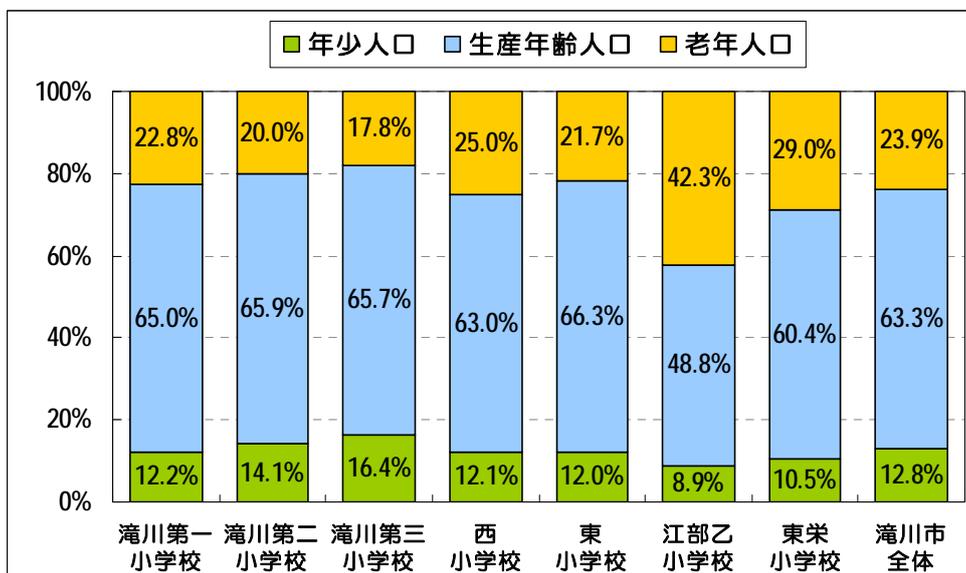


図 3.6 小学校区別の年齢別人口割合／H17 国勢調査

※上図の人口は東滝川町と東滝川の合算(学校区と少しずれがある)となっており、下図は学校区の人口と一致しているため、上下の図の平成17年時点の人口比率の値は若干異なっている。

以上の現状から、今後の地区における都市づくりの課題として、以下のものがあげられます。

課 題	①人口の維持と若い世代の流入促進
	②生活利便性の向上
	③未利用地（空き地）の活用
	④公園施設の更新

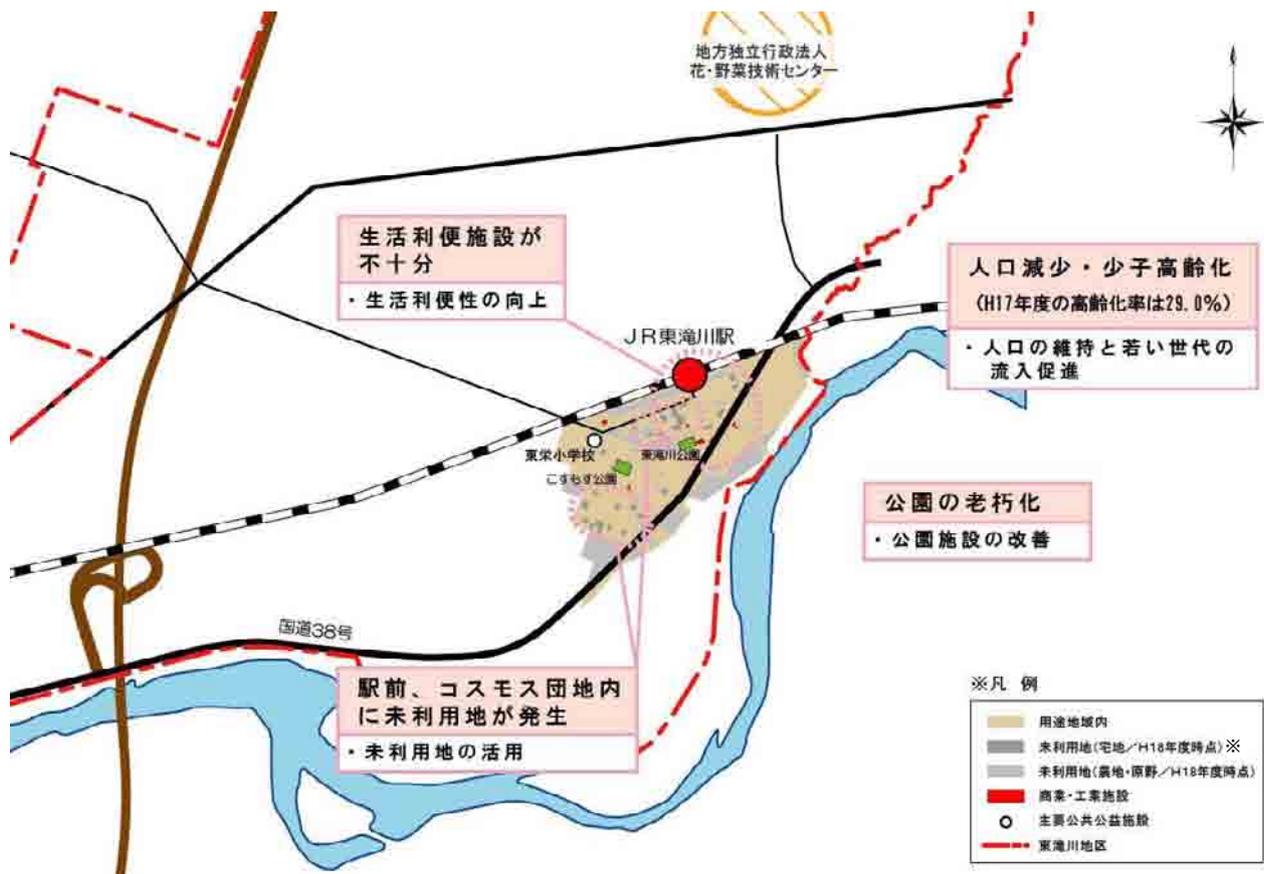


図 3.7 東滝川地区の現状・課題図

※未利用地(宅地): 未利用宅地のほか資材置き場、青空駐車場、屋外運動場、屋外展示場が含まれる

3-3-2. 地域資源

地区内の地域資源は、高速道路のインターチェンジがあり、周辺市町村も含み交通の要衝となっています。また、自然環境としては空知川が、施設・歴史資源として花・野菜技術センターをはじめ、転作研修センター、郵便局、A-COOP、JA 倉庫、仁木他喜雄顕彰歌碑や石碑等があります。地区内には土地区画整備事業で整備されたきれいなまちなみや良好なガーデンハウス等も存在します。



3-3-3. 東滝川地区の地域づくりの方針

(1) 将来像

花と農で新たな活力を創出し、ゆとりある住環境で豊かに暮らせるまち

(2) 地域づくりの目標

【目標 1】 ゆとり居住型のコンパクトタウン

地区が有する豊かな自然環境、農村景観等を活かして、花・野菜技術センターと地域が連携して花と野菜のガーデンタウンを促進するなど、魅力ある景観づくりなどを行い、ゆとりある暮らしを守る住宅地を形成します。また、JR 東滝川駅周辺から国道 38 号沿道に生活利便施設等を集約し、未利用地を活用してコミュニティガーデン等を住民主体で整備するなど、コンパクトで暮らしやすい地域づくりを地域の皆さんとともに目指します。

【目標 2】 交通利便性と農業・園芸技術を活かして地域の活力を創出するまち

国道 38 号沿道に、花・野菜技術センターと連携した農産加工場や物流、地域情報の拠点形成するなど、高速道路 IC や国道 38 号の交通利便性を活かした新たな産業の拠点として地域の活力を創出します。

【目標 3】 高齢者も若い世代も豊かに暮らせるまち

高齢者向け共同住宅や小規模な福祉サービスを充実させるなど、高齢者が安心して住み続けられる居住環境を形成します。また、地域のコミュニティが良好で、子どもがのびのびと育つ豊かな環境を形成するなど、若い世代も豊かに暮らせる地域づくりを目指します。

さらに、交通利便性の向上により滝川市街地（コンパクトタウン）との結びつきを強化することで、より住みやすい地域づくりを進めます。

3-3-4. 地域の整備方針

(1) 整備の方向性

◆産業を創出しながら、高齢者が住み続け、若い世代も暮らせる居住環境の確保・充実を図ります。

畜産試験場跡地の利用や、花・野菜技術センターと連携した新たな産業の創出を図りながら、高齢者が安心して暮らせる住宅・住環境、若い世代が暮らしやすい住宅・住環境の確保・充実、既存住宅や未利用地などを活用して住み替えできる仕組みの構築など、居住環境の総合的な質の向上を図ります。

◆滝川市街地（コンパクトタウン）の生活利便施設等で生活機能を補完しながら住み続ける環境を維持するため、公共交通等の移動しやすさを向上します。

地域内の生活利便性向上とともに、滝川市街地（コンパクトタウン）に立地する買い物、医療、福祉、公共施設等により生活機能を補完するため、国道 38 号における公共交通、自転車交通など、アクセス向上を図り、地域に住み続ける環境の維持に努めます。

◆潤いがあり、魅力あふれる生活環境を実現するため、花と野菜をテーマとした地域づくりを行います。

地域の特徴である農村環境やゆとりある居住環境を活かし、さらなる魅力創出を図るため、花・野菜技術センターとの連携を強化し、花と野菜を活かした住宅地景観の形成や地域内外の交流促進などを図ります。

(2) 整備方針

【方針 1】 土地利用・居住環境

- ・高齢者が住みやすい環境づくりやまちのコンパクト化を進めるため、共同住宅等、幹線街路沿道の中高層の住宅整備を誘導します。
 - 民間事業者への未利用地に関する情報提供や共同住宅の立地誘導、市営住宅の建て替えの検討など
- ・高齢者も若い世代も暮らせる環境づくりを進めるため、住み替え支援の仕組みづくりを検討します。
 - 移住・定住施策や、一般社団法人移住・住み替え支援機構（J T I）との連携等を検討します。
- ・ゆとりある居住環境を形成するため、地区計画や景観計画の活用を検討します。
- ・地区の生活利便性向上、住宅地の魅力や住みやすさの向上を図るため、未利用地を有効活用します。
 - 生活利便施設の誘導、地域のコミュニティガーデンなどとしての活用（借地として地域住民やまちづくり団体などが管理するなど）を推進するなど
- ・魅力ある住宅地を形成するため、花と野菜を活かした住宅地景観の整備を促進します。
 - 花・野菜技術センターと地域が連携した住宅地における花づくりの促進など（花と野菜のガーデンタウン）
 - 国道沿道におけるV S P（ボランティアサポートプログラム）の検討、ガーデニングコンテストなどのイベント活用等による住宅地における花植え促進など

【方針 2】 交通体系

- ・滝川市街地（コンパクトタウン）とのアクセス強化を図るため、幹線街路における既存バス路線の充実や東大通（国道 38 号）の 4 車線化を目指し、関係機関との協議を行います。
- ・農村部に住む高齢者等の生活利便性向上を図るため、新たな公共交通の導入を検討します。
 - 乗り合いタクシーなどの導入検討
- ・J R 東滝川駅の交通拠点としての利便性向上、また、地域資源の活用の観点から、整備を目指し、関係機関との協議を順次行います。
 - 駅前広場の整備や老朽化した駅舎の改修準備の検討など

【方針3】 都市施設等

- 地区の生活利便性向上を図るため、JR東滝川駅周辺、国道38号沿道において生活利便施設の立地誘導を図ります。
- 高齢者が住み続けられる環境づくりを進めるため、空き家の活用などによる小規模な福祉サービス施設の立地を誘導します。
- 地区の魅力向上を図るため、既存の遊休施設を地域主導で活用できるよう関係機関と協議します。
 - JA倉庫の活用など
- 豊かな環境を活かした魅力ある景観づくりを進めるため、景観計画区域などを検討します。
- 地区の重要な緑地資源の維持・活用を図るため、公園施設の更新及び再整備と市民参加型の維持管理を促進します。
- 地域資源を活かした地区の魅力向上を図るため、川の駅（赤平）との中継地点としての役割を踏まえ、空知川とのアクセス性の向上を検討し、親水空間の整備手法を関係機関と協議します。
- 地域資源を活かして魅力や活力向上を図るため、新たな観光資源の掘り起こしを検討します。
 - フットパス事業を活かした地域の歴史資源や交流拠点等を結ぶルート（環境フォーラムによるフットパスルートの指定）や地域情報発信の拠点、仕組みづくりなど
- 地域ビジョンの策定などに取り組むコミュニティが、良好で暮らしやすい地域づくりをさらに進めることができるよう、地域コミュニティが中心となって地域の課題解決に取り組む先駆的コミュニティ地区として支援する仕組みづくりを検討します。
- 生活基盤を適切に維持し、快適に暮らせる居住環境づくりを進めるため、下水道施設の適切な維持管理に努めるとともに、老朽化した下水道施設については、長寿命化を図りつつ、改築更新に努めます。

◆東滝川地区の将来構想図

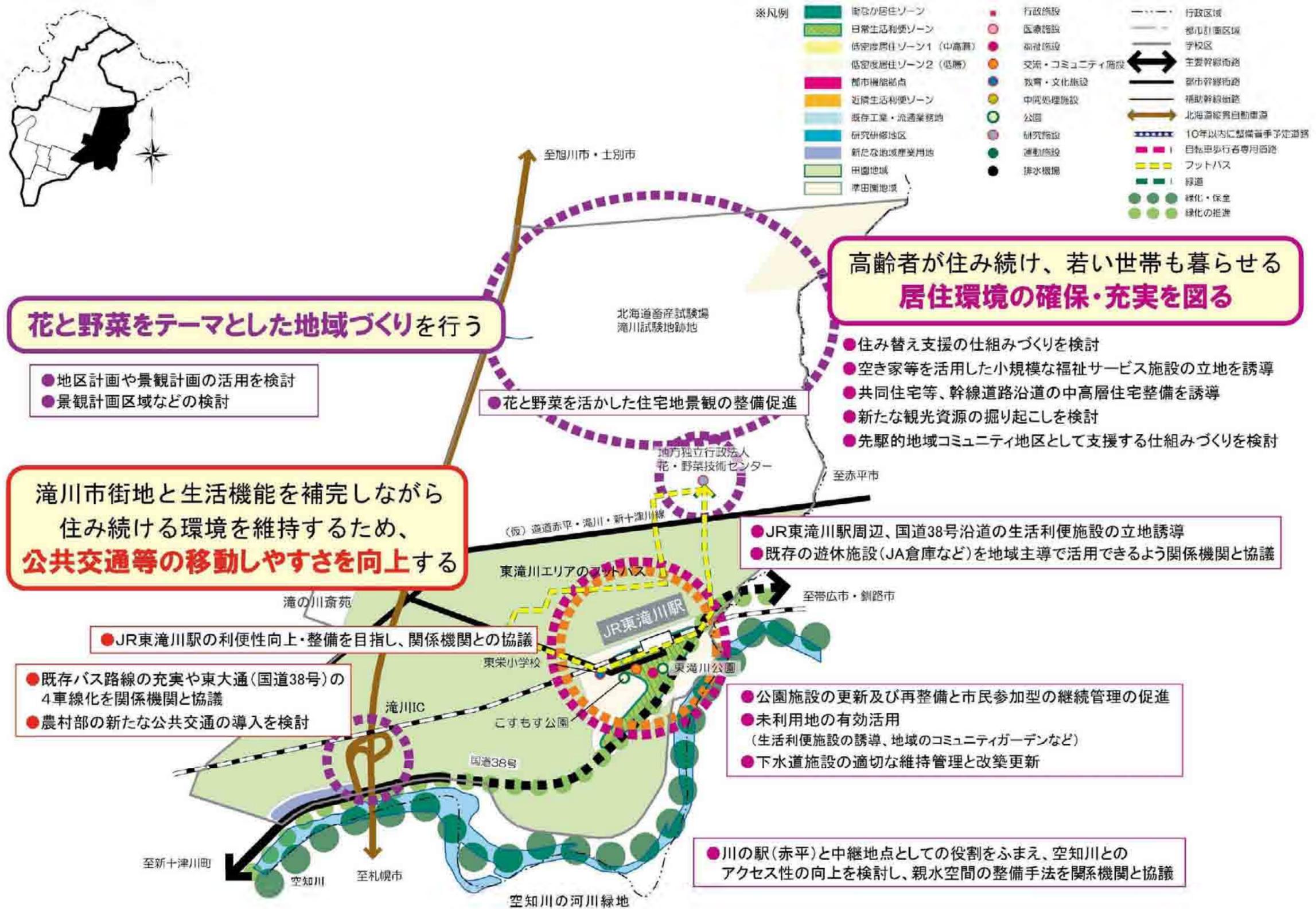


図 3.9 東滝川地区の将来構想図